

02-SI

海老澤文庫

新約聖書加拉太書

全



耶穌降生二千八百七十七年

翻譯委員社中
米國聖書會社

新約聖書加拉太書

明治十年

日本橫濱上梓

海老澤有道文庫

使徒パウロガラテヤ人におくれる書

第一章 人よりよあるは。まことよよろこび耶穌キリストと

かき紙よみぐらせし父ある神よりきてたてられし使

徒パウロにおよびわれともあるをばてのきやうだい

カラテヤに諸教會よみをおくる。三 たりんちらねがをくハ

ちある神およびわれらに主の道をキリストより恩寵と平

康をうけよ。四 キリストもわれらに父あるかみは。皆よあるこの

ひ今のありき世よりわれらにをくひのどきんとてわれら

の罪のためよおのの身はをてたまへり。五 ねがをくハ榮光

のをよ歸してよしよい。六 耶穌アーメン。六 キリストのをくみ紙

新約全書 加拉太書第一章 自一至十節

おれなんぢら召さるるものをあんぢらがかくきみやうは
はあれて異なるといふ人よりはさしこく我われあやむ
七 これも福音はあはれある人たゞあんぢらをみどりキリスト
のふくむんぢらかんとするありハわれらよもせよ天よを
の使者もせよ。われらか曾てあんぢらよつとつと
ころよささのらふ福音とあんぢらよつたあるものいれろを
るべし。わきまをよいひし。今まこれそのこととい
せん。あんぢらよ受しとらるよささのらふふくむんを
んぢらよつとあるものも呪詛るべし。いまこれひとれ親
をえんことをもむるや神れあさしみ張得んこと我れ

むるや。あるひと人のことろをえんあをぬぐあや。れ
れひとの心張えん。ことをぬぐは。キリストの志もべよあ
ざるべし。兄弟よこれあんぢらよ志りは。これ曾てあん
ぢらよ傳しとらるの福音はひとよをいづるよあらはしそ
はこれこそを人よをうけはまことしうらなれ。た。耶穌
キリストの黙示はよをうけられをあり。わがささふユダヤ
教はあさしとき行はるること我あんぢらきけり。まかち
えみとどく神のけうとこい我せめ。このつらねはほろぶせり
あ。これまこと心をひとりも列祖のいひつとよ熱しユダ
ヤ教はあさしわが國人のうち年ひとしきおほくのものを

よきことありてなり。我う生まれしときよりこれをえ
らびおき恩恵もてられぬや。さきひに神よその子に異邦
人のうちよのびしめんが爲らるよよりして彼とわが
心よあはれしきくするそのとき生まれた。ちよ人とせしむるこ
と致せしむ。まふられよりさきよ使徒となりてエルサレムよ
あるところのものも往はアレヤヤよゆきまよこダマスコよの
つまり十二年とてのちペテロ致らねんさめよエルサレム
よ致るは十五日のれとさよまよさきし。わあこの使徒とち
よい主のきやうごいヤコブとのぞきてまたれよもあをさり
き。今わがあんぢよよこのきおらるところに神のまふよ

つとねることなり。その後われスリヤキリキヤの地方よい
られし。あつれどもユダヤよあるキリストの諸けうとわいの
わの面をあらざりき。只このれは前よかのれら致せぬ。
ゆのいまもそのさきよほろおさんと。たる信仰のみちを
のびつとあとき。わがこころよよりて神をあのおむること
をせり。

第二章 十四年の致ちまれバルナバとともよテトスをともま

ひてまよエルサレムよ致る。その致りしハ黙示よあ
がくるなり。いもうとんの中よおいさわがの聲しとそらの
福音なうれよよつげ。まよひそのよ名あひとさちよられ

を告たり。その今つともむめとてあらまよきせは勤勞とてあら
のこらむあしとあしざらんのこめなり 三 それとともま
ありーテトスもギリシヤ人あるふなを志ひていられは割禮
けさせざりき 四 その私よけれらるしつちりの兄弟
あるよよりてあり。このころのひそのよいまハハヤキの耶
蘇キリストはありて有とてその自由とてうかひまれは奴
隷とせんのかめなり 五 それく一時もこれに服するこら
せは。此ハあくいんの眞つねよなんちらとともよあらんこ
らけをめばかり 六 この名あるものよりまをけし
となし彼らといふある人あるあもせよそれよかいて與と

ころかー神ハうこよるものよあらば。この名あるものそれ
は誨教そくーことなきなり 七 反てこれハペテロが割禮を
うけたるものよ福音をつらるこらけ託らるしーこらけ我
からきいけさるものよあくいんは傳こらけをゆえなら
れしを見ハペテロは能力あててうかれはけさるひ
とに使徒となせしもの。まこわれもちうとあてて異
邦人は志中とあせり 九 我よまひーこらけのめをみ
張者よふより柱とおもするヤコブケヨハネもその右手
をあててやせとバルナバは交けむまぶ。これそれらハ
ちうしんよのころ。これハ割禮けさるものよのころ

んためあり。かれらの惟ねづふところハわれらの貧民は
うんまらん。こゝろあり。われらもまゝこのこゝろハ素よりま
んであさんとほるところあり。±ペテロアテオケよいたり
しときこれ又責べきところあり。よよりそれまたあり
これといましめたり。±そのヤコブよりきこむものハ、ま
し。こゝろあり。まゝ。±ペテロ異邦人とともに食し。これをも
うれづろ。うれづろ。ふおよびて割禮をうけざるものをおそ
退ていもうとんとやうれしきあり。±そのあはれユダヤ
人もうれとぞも。お偽のおこあひをな。バルナバもつひよそ
のりつちりの行よ。さそたれたり。±これうれづろ。ふくいん

の眞よ。あゝ。うひた。こゝろあり。おこなるをざる。故見まべての人の
ま。よ。おいそ。ペテロよ。いひける。ハ。爾ユダヤびと。よ。こゝろあり。
異邦人のこゝろあり。おこあひ。ユダヤ人のこゝろあり。おこあひをざる
ときハ。あんを異邦人。故あひて。ユダヤ人のあゝ。う。よ。あゝ。
か。を。せん。と。ほ。ろ。や。±。それ。や。あゝ。う。ハ。生來のユダヤびと。よ。こゝろあり。
異邦より。い。で。た。ろ。う。み。び。と。よ。あゝ。に。ま。さ。れ。ど。ひ。と。の。義。と。せ
ら。ろ。う。ハ。律法のおこあひ。よ。よ。ろ。よ。あゝ。に。±。耶穌キリスト
故信ま。よ。よ。ろ。なる。故。し。る。この。ゆ。ゑ。よ。ま。れ。ら。も。お。き。て。の
行。よ。よ。ろ。に。キリスト。故。信。ま。よ。よ。り。て。義。と。せ。ろ。れ。ん。ふ。こ。ろ
±。耶穌キリスト。を。あ。ん。に。そ。い。お。き。て。の。お。こ。あ。ひ。よ。よ。ろ。て。義

とせらるるものあけむバなり せらるるキリストより
て義とせられんことをねがひ尚つみびとたすらバキリスト
ハ罪のあむべなるもの。きをめてあかすにたわがさきよ毀
このあのをいまゆるふてび建るがみづうその罪人
るをあらうりたり ちやき律法よりておきては死す。これ
神よりていきんためあり 三これキリストともは十字架
まつけらるるなり。もはやこれ生はあはれキリストはあり
ていけるあり。いまこれ肉體はありていけるハこれを愛し
てわがさめよかのれをまてしはれをもち神の子とあん
びるよりてつけらるるなり 三これハ神のあをみをおかす

せむ。義とせらるることおきてよりバキリストの死ハ
なづかあるわがさるる

第三章

おろあるのな。まては耶穌キリストの十字架まつけ

られしことをあきらめよその目前はあはれされしガラテヤ
びとよ。誰がなんぢら紙たあらしやせしや 二これこそ
をなんぢらよりききんよ。なんぢらガ靈紙受けハおま
てをおこちよよりる。ちよきて信せしよよらるの 三なん
ぢらかく思なる。なんぢら靈よりてまてありいま肉よ
よりてまらさうせらるるや 四なんぢら如此おちくの苦をい
なづらよりけしや實は徒然ハあるまて 五それなんぢら

は靈^{ミコト}はあつていつ奇跡^{キセキ}をおこなうもめつめつものほろく
なれいなんぢらがおきてを行^{イタス}よよりてあるものすつはき
て信^{しん}せよよりてあるもの六 ときみちちアブラハム神^{カミ}とあん
その信^{しん}仰^{やう}を義^ぎとせられけるかおと七 このゆゑはあん
うよよるものこれアブラハムの子ありとなんぢらあつて
一八 聖書^{せいしょ}をよらんううよよりて神^{カミ}のいさうとんば
義^ぎと一うめことばあつたためさうり。まづ福音^{くふん}をアブラハム
よつてきてきてのちに民^{たみ}いなんぢよよりてさへちひ
をえんといつり九 このゆゑは信^{しん}仰^{やう}よよるものハあんうう
あり一アブラハムとさきに福^{ふく}とうと十 おろよを律法^{りつぽう}のおこ

なひよよるものハゆるはるべし。そのおきての書^きよのせ
るまぐてのこを恒^{とこ}よおこなうまざるものハ呪^{のろ}詛^いとあらさ
れさむなり 十一 聖人^{せいじん}とあんううよよりて生^うべしとあ
ればおきてよよりて神^{カミ}のまゝは義^ぎとせられよるものあまこ
とハあまらるなり 十二 それ律法^{りつぽう}ハあんううよよりて
ち曰^いふればおこなふものハこれよよりて生^うべしと十三 キリスト
まをよちきうのさめよのちもさうものありてわれらば
あづあひ律法^{りつぽう}のゆるひよりをなれしめたまはり。そのまぐて
木^きようするものハのちもさうものありと録^{ろく}されよるばな
十四 これアブラハムよやくそく一うめ一恩恵^{おんゑ}ハはなキリスト

2よりて異邦人^{いとうじん}にまををかよび。それらある志ん^{しん}のうより
て約束のみ^{やくそく}をうけり。五^ご兄弟^{けいだい}よこれのま
人のことよりていん。ひとの契約^{けいやく}よまをよきごむれ
バ^バを廢^いま^まとあることなり。夫^夫やくそくハアブラハム
とその裔^{しよ}よたててうむひ^ひのよ^よておんくの人^{ひと}をさ^さ
て裔^{しよ}の^のよ^よてあ^ある^るに^にさ^さて^て爾^{なん}の^のま^まを^をさ^さて^て
るあり。これあるをちキリストなり。七^七それ^{それ}を^をい^いん^ん神^{かみ}の
あら^{あら}り^り定め^{さだめ}る^るに^にけ^けり^りや^やく^くハ^ハ四百^{よひやく}三十^{さんじゅう}年^{ねん}の^のち^ちに^に律^{りつ}法^{ぽう}
これとあてその約束^{やくそく}のこと^{こと}を^をむ^むな^なし^して^てさ^さる^ること^{こと}を^をせ^せぶ
るあり。大^{だい}嗣^し業^{ぎょう}とあること^{こと}に^にあ^あき^きて^てよ^よより^りバ^バや^やく^くそ^そく^くよ

ハ^ハよ^より^りき^きる^るに^に。され^{され}と^と神^{かみ}ハ^ハや^やく^くそ^そく^くよ^よより^りて^てこれ^{これ}に^にア^アブ^ブラ^ラハ^ハム
よ^よ賜^{たま}へ^へり^り。○[○]九^く志^しの^のら^らバ^バあ^あき^きて^ての^の用^{もち}ハ^ハある^{ある}に^にぞ^ぞや。こ^この^のや^やく^くそ^そく^く
と^とう^うき^きべき^{べき}裔^{しよ}の^のま^まを^を罪^{つみ}の^のため^{ため}よ^よき^きる^るに^に。○[○]の^のみ
て^て天^{てん}使^しの^の手^てよ^よそ^そなく^{なく}た^たう^うむ^むに^になり^り。三^{さん}それ
た^たの^のだ^だち^ちハ^ハひ^ひと^とり^りに^に屬^{ぞく}する^るもの^{もの}ハ^ハあ^ある^るに^に。神^{かみ}ハ^ハま^まを^をむ^むひ^ひと^と
り^りなり^り。三^{さん}志^しの^のら^らバ^バあ^あき^きて^てハ^ハ神^{かみ}の^のや^やく^くそ^そく^くよ^よより^りて^て決^{けつ}て^て
あ^ある^るに^に。人^{ひと}は^はい^いの^のら^らバ^バあ^あき^きて^てを^をう^うむ^むに^になり^り。ハ
義^ぎと^とせ^せら^らる^るに^に。ハ^ハの^のら^らバ^バ律^{りつ}法^{ぽう}よ^よき^きる^るに^に。三^{さん}あ^あり^りれ^れども^{ども}聖^{せい}
書^{しよ}ハ^ハう^うむ^むつ^つて^てま^まを^をて^ての^の人^{ひと}を^を罪^{つみ}の^のため^{ため}よ^よき^きる^るに^に。こ^この^の
耶^い蘇^すキ^きリ^りス^すト^とを^を志^しん^んに^によ^より^りて^てや^やく^くそ^そく^くの^のもの^{もの}に^にあ^ある^るに^に。

の信者よたまりうんづめあり 三 信仰のきこゆるさま
よのわきう律法のあこよちうめられ。うら守れそのお
らりれんとまゝ 信仰をまてま 四 うくおきていわれと
てあんううよよりて義とせううく ころ得せーのんがた
めよわきうをキリストよみちびく 師傳とかれり 五 考られど
も今あんううまをよきうりうればわれらもちや 師傳の志
うよあうに 六 あんぢらみかキリスト 耶穌をあんまるよ
てて神の手となれり 七 そハおほよそバプテスマ受うけて
キリストよつれらなんぢらハキリストを衣たるものあればな
ま 八 うゆるものれらちるハユダヤ人まこギリシヤ人あるひ



奴隷あるひハ自主あるひハをこあるひハをんるの分
なり。そハあんぢらみるキリスト 耶穌はありてひとりあれば
なり 九 そハあんぢらキリストは屬するものあうばなんぢら
ハアブラハムの裔まぬもちやくそくよあこづひて嗣子たる
なり

第四章

それいせん。よらぎうるものハ 全業の主あれどもそ

のわらぐのうちあもくよことなることあり 一 父のさうめ
一期うらまを受託者おすび家宰のあこよあり 三 かくの
ことぐまねらもわらぐのうちハこの世の小學のあこよあ
りてあもくうらなり 四 考られども 期をまいたるよおよ

びく神その子故つのもうく多し。うれい女よりうぬれこ
つおたてのしるは服しり。五これ律法のしたるあるもの
をあらひわれをして子たることをえせしをんがうめ
なり。六且るんちらまをよ子たることをえしはゆゑは神を
の子は靈我あんぢらのあゝろよおろりアバ父とよがしむ
七このゆゑはなんぢのまや僕はあゝに子ありまをよ子
なまはまご神よりてよつきたるあり。八志うれどもあん
ぢら神をあらぎりしときはその實うみはあゝぎらぬものよ
つうてあまぐりき。九然どもあんぢらいま神をあらり
うつてうみはあられりといふべし。なんぞよわくのや

一き小學よりしてあまびこまのあまぐりしんことを
ねがふや。なんぢらつりみて月と日と節と歳と試まも
る。二ま色なんぢらよつらあやむおそくはなんぢら
のうめはまごの勤勞しりとのむあゝあゝんらと試。三兄
弟よねのいさひなんぢらまごごとくあれ。その我あんぢら
のこゝろなまたきはあり。なんぢらにそれを害せしことか
し。四さきよまれ弱身よしてあんぢらよふくのいんをつし
し。五こゝろ爾らのあるところあり。六なんぢらに試惑もの
わの身はありしをなんぢらはいのやしをばまさとたふりぬ。の
つづき天使のごとくキリスト。耶穌のごとくは我をあらうい

さういふあんぢららそのときを福さいわいのよありーや。それなんぢらよ證あかしに。おーあーうべくバなんぢらみづーうと目めを
とめてそれよあそんとまをわづひさういふ志こころするよわを
なんぢらよ眞理まこと哉やうさうーよよりてそれあんぢらの仇あだと
ありーやまうねらああんぢらよ熱心ねっしんあるよまきさうさるよ
あうねあんぢらまを巴おれよねつーんちらとてあんぢら
哉やをなれーめんときるありまされどとてわづあんぢらと
ともあるときのみあうに善事よきことのためよ常とこよねつーんある
ハよらーきありまわづ小子こごよそれなんぢらの心こころよキリスト
のうさち成なませハあうさういひなんぢらのさあは産うぶのさうー

み哉やあはまそれ今いまあんぢらとともにあうて口くち氣きをあらた
めんこと哉や祐すけがふ。それそれなんぢらよついでさまがーをふ
り○三さんなんぢら律法りつぽうのーうよあらんらと哉やねがふものよ。
さういふ語ことばれなんぢらおきてを聞きざるらま三さん録ろくハアブラハムよ
二人ふたりの子こありひとりハ婢めかけよりひとりハ自主じしゆのせんみより
生なまさうとありま三さんその志こころもめよりうまれーものハ約束やくそくよよりてうま
がひ自主じしゆのせんみよりうまれーものハ約束やくそくよよりてうま
れさうなりま三さんこのころハ譬喻たとへよしてまゐるらこのせんみ
ハあうさうの契約けいやくよあぞらふべし。ひとりハシナイ山やまよりい
や、子こをゆきいさうむ。それまゐらちハガルなりま三さんこの

ハガルハアラビヤのシナイ山シナイ山のエルサレムエルサレムにあらはれるな
り。そのはうれその子こどもともとも奴隷こうれをたうり六されど
上上にあらるところのエルサレムを自主トにしてこれをもつるの母
なりモ。そのあるして。もうまはうぬざるものよとらあぐ産
のらるしみせざるものよ聲こをあげてうをきひとてむめ
るもの生子こハ夫ちあるもの生子こよりもおろきかゆ急ありと
あねバあり六兄弟きやうだいよそれうハイサクのごとくやうそくの
子こあり五。あうれどもむうの肉にくはあごづひてうまをいも
の靈たまはあごづひて生うれしものをせめしごとくしまもま
あうり三。されど聖書せいしょハたふとつくるや婢めかけおよびその子と

おへ。そのハもめの子こハあしめし婦よめのおところもようらぎと
なるべうらざねバなり。とつり三兄弟きやうだいよそのごとくあ
ねバそれうのあめめの子こはあうじ。この自主トのをんるの子
なり

第五章 耶穌イエスキリスト

キリストそれらをときて自由トをえさせり。こ

のゆるまなんぢら堅たたちてあうひとねいの軛くわをつる
る。あうれニそれパウロなんぢらよりみ。なんぢらも一割
禮らいをうけるバキリストさうはあんぢらよ益えきあ三。それま
うらねいとうけらるかのくの人ひとはつらあう一。その人
ハまら一。さき律法おきてをおこたふべきものなり四。なんぢらかき

てはよりて義とせらるるものハキリストとてしるをなく恩
よりかちさるものなり 五 わきま望とてらるもの。まをせし
信仰をもて義とせらる。こゝに靈はよりてまらなり 六 そ
れキリスト耶穌はありてハ割禮をうくるもうけざるも益み
くだ。愛よりてまらるるところの信仰のみえさあり 七
なんぢら前ハよきはしそり誰かなんぢらの眞理は志
こづをさるやう阻ことをせしやハその勸ハなんぢらにめ
はものよりいづるはあはば九まこゝのパンだねハ全團は
こをふくれしむ。なんぢらよついでハそれなんぢらに
こゝも異念はつごのさるること。主はよりてなんぢにされよ

てもなんぢらをつづらりしものハその審判をうくるべし 十一
きやうだいよ。かれし。いまもなを割禮とてバなんぞせ
めらるることあらんや。し。然せばもや十字架につまら
くこゝやむべし。なんぢらと亂のしみづらるんぢら
よりちなれんことをねがふ 十三 そハ兄弟よなんぢらの召と
このむりて自由とえらるるものなをバあり。それとてそのおゆ
うはうは機会とて肉はあさぐみあり。愛とて
たうひまつりあることをせよ 十四 それかのれれごとくなん
ぢの鄰をあいまべしとてこの一言まぐてのおきてを
まらうらうらなり 十五 なんぢら慎よ。し。たがひよかみらら

のどおそらくの 互にほろおされん〇十六これのやなんぢら 靈たま
によりてあゆむべし。さうバ肉の慾をなんぢらあらん十七
その肉の福のひのみさかすひ靈の福のひのみさかすに
さからひ此ふさうのものたのひはあひ敵このゆゑはあん
ぢらまのむところのこと紙なれをえは十六されどなんぢら
も靈のみちびうきときはおきての志さあはるさうべし
充 それ肉のおこなひのあはるなを。さあらんぢら 苟合 汚穢 好色
偶像 二つうあること 巫術 仇恨 争闘 妒忌 忿怒 分争 結黨
異端 三 媚嫉 兇殺 醉酒 饕餮 などのおこすこと。さうのこころはつ
きそれ嘗てなんぢらまこのことをなれものハ 神國はつと

べうらびとつぎそのことくつぬまゝあらこのためこれと
つを 三 靈のむけふところの果ハ 仁愛 喜樂 和平 忍耐 慈悲
良善 忠信 溫柔 樽節 かくのことときさぐひと禁ばるおきてのあ
ることなり 四 それキリストはさうものハ肉とその情お
よび慾をば十字架につけさう 五 ちわけさうより
ていきまがまゝ靈によりてあゆむべし 六 さうひは怒さう
ひは移さむさう紙あてて 塵榮をともむるなうれ
第六章 兄弟よ。ちはうらびも 過さあちいるものあはるな
んぢらのうち 靈よりんどももの柔和あることさう紙もて
これ残さうまべし亦みづらうをもさうへてみよ。おそらくのな

んち誘惑まよわさするごとあらんニなんちらさうひの勞あつをおへ斯し一
てキリストのおきてと全まことはび一三人にも一あるごとなくして
さうら有あとせむこれみづくらあざむくあり四おのくそ
のあはところばうんがへみよ如此かくせむほころもとおふた
おのれよあきて人ひとよあはべ五そのひとおのくその荷かをお
ふけければなり六されど道みちばをへらさるものハみちば
どふもものよまきて有益えきあるものをわけあさるべ一七
みづううあざむくふくれ神かみのあまざるべきものはあはべ
その人ひとのまうくさるもの口くちまこそその獲とととあとなるを
りハおのく肉にくのさるよ種たねものハあくより敗壞くわいものをか

と聖せい靈れいのさめよまきものハみづぬより永生えいせいをうもらるべ
一九九善ぜん哉哉おこあふよ臆おそはるふうれ。そハ一倦うことあくハ
われくさきよいうまてかそとるくけむバあり十このゆゑ
よも一機き會かいあはははくての人ひとよせんばあはべ一信しん仰やうのこ
もづうまのわけてこればあすべ一〇十一なんちらさる親おや手て
あんぢらよのまかえる字あのいうよおふいあること見よ十二
およそ肉にくこついでうるはしうらんことを祿ろくりかものハち
んぢらよ割わり禮らいを強あられとておのれキリストの十字架じゅうじかのうめ
よせめらるくさくばまぬうれんケうめあり十三そハいつき
いうけらるうれく尚なほみづううかきてばまゆることをせむ

彼らがあんぢうようきい候うけさせんとほるのなんぢ
らの肉はにおいておこらんとおまふあり されどもそれのハ
うゝそれの主い迄はキリストの十字架のあらはをこると
ころをうらんこゝを願このキリストによりてそれ世はむら
つばよん十字架こつけられ世のそれに向ふもまゝとあうり
十五 それ耶穌キリストにおいてかうられいせうもるもけざ
るもえきあうう新まつくられしおのみ益あり 夫およ
そこの規矩はあうひてあむものよねうハくハ平康と
めをみとあれ神のイスラエルよもまゝとあうれ 今よりのち
それもそれをわづらんたうれ。そハわれ身はい迄の印

記をおびたればなり 大兄弟よ福がまうハまわりの主い迄
まキリストの恩をんぢらの靈とらひならんこゝとアーメン

新約聖書加拉太書 終

新約全書

加拉太書第六章

十八節

十六



95-91187

1863

NOV 2 1941

